



志木市

令和7年度
教育委員会の事務に関する点検評価報告書
(対象：令和6年度教育行政施策)

令和7年12月
志木市教育委員会

目次

I はじめに.....	- 1 -
1 趣旨.....	- 1 -
2 点検・評価の対象及び方法.....	- 1 -
3 評価結果の報告及び取扱い.....	- 2 -
4 点検及び評価に関する学識経験者.....	- 2 -
5 施策の体系.....	- 3 -
II 施策の内容及び評価.....	- 4 -
1 点検及び評価対象事業一覧.....	- 4 -
2 事務点検評価書(令和6年度事業).....	- 6 -
3 志木市教育委員会事務点検及び評価について.....	- 29 -
※ 資料.....	- 33 -

I はじめに

1 趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の第26条第1項では、毎年、その権限に属する事務の管理・執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、市民に公表する責務が教育委員会に課されており、同法の規定に基づき、「教育委員会の事務に関する点検・評価」を実施し、報告書を作成いたしました。

平成26年度までは、志木市行政評価制度の評価結果報告書により、議会への報告と市民への公表を行ってきましたが、平成27年3月の当該制度の廃止に伴い、平成27年度から志木市教育委員会として、市民への説明責任を果たすため、また、効果的な教育行政の推進に資するため、独自に点検及び評価を行っております。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象とする事務事業は、令和6年度志木市予算及び事業概要説明にも記載され、令和6年度に特に重点的な取り組みを行った、志木市将来ビジョン『第5次志木市総合振興計画前期実現計画後期実現計画（令和3年度～令和7年度）』に位置づけられた令和6年度の教育行政諸施策を中心に、点検・評価を実施しました。

令和6年度は近年、気候変動や自然災害など教育環境へ大きな影響を与えている事象が発生している中で、予測困難な時代の課題に対応するために必要不可欠である教育行政の推進、教育環境の整備についてさらなる充実に向けた事業を展開しました。

その中で、18の事業について、所管課が一次評価を行い、その中から7事業を選定し、学識経験者により二次評価をいただきました。

【教育委員会事務点検評価会議開催状況】

9月29日（月） 二次評価対象事業ヒアリング

3 評価結果の報告及び取扱い

教育委員会の事務に関する点検評価報告書を作成し、市議会に提出するとともに市民に公表し、翌年度における施策、事業の改善に役立てるものとしします。

4 点検及び評価に関する学識経験者

委員は近隣大学において様々な分野で人材育成に携わるなど、教育について高い識見を有している方並びに地域に密着した活動を生かすと共に長年、地方行政に携わり培われた豊富な知識と経験を持つ方をお願いしました。

【令和7年度教育委員会事務点検評価委員】

つかだ しょういち 塚田 昭一	十文字学園女子大学教授
むらかみ あやこ 村上 文子	民生委員・児童委員、元地方公共団体職員

5 施策の体系

市民力が生きるまちづくり

子育てしやすいまちづくり

- 子どもの育ちと学びをつなげるための支援

地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり

- 知・徳・体の育成
- 地域社会に開かれた教育の推進
- 安全で安心な学校づくり
- 特別なニーズに対応した教育の推進
- 青少年の健全育成

一人ひとりが輝くまちづくり

- 人権啓発・教育の推進
- 異文化交流の支援

市民を支える快適なまちづくり

豊かな文化を育むまちづくり

- さまざまな学習機会の提供
- 生涯にわたり学ぶことができる環境づくり
- 学びで支えるまちづくり
- 文化を育む活動の支援

スポーツを楽しむまちづくり

- 健康ライフスタイルの支援
- スポーツ・レクリエーション活動の支援
- スポーツ施設の整備・活用

II 施策の内容及び評価

1 点検及び評価対象事業一覧

第1章 1-2 地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり

1 知・徳・体の育成

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
1	タブレット端末等ICT機器を活用した授業の推進	学校教育課	○
2	義務教育学校設置に向けた基本設計の実施	学校教育課	
3	水泳授業委託の実施	学校教育課	

2 地域社会に開かれた教育の推進

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
4	スクールロイヤーの導入	学校教育課	○

3 安全で安心な学校づくり

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
5	志木っ子学校給食応援事業の実施	学校教育課	
6	宗岡小学校給食室大規模改修工事の設計	教育総務課	
7	宗岡中学校体育館大規模改修工事の設計	教育総務課	
8	学校施設等照明器具LED化工事の設計	教育総務課	
9	宗岡第二中学校給食室の空調設備の設置	教育総務課	

4 特別なニーズに対応した教育の推進

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
10	いじめ、不登校対策事業の強化	教育サポート センター	○

第2章 2-3 豊かな文化を育むまちづくり

1 さまざまな学習機会の提供

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
11	いろは遊学館・公民館の講座、教室等の充実	いろは遊学館	○
12	公民館3館合同リレー講座の実施	いろは遊学館	
13	子ども読書活動推進事業の実施	柳瀬川図書館	○

2 生涯にわたり学ぶことができる環境づくり

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
14	学校図書館の運営支援事業の充実(学校図書館事業推進アドバイザーの配置)	柳瀬川図書館	○

4 文化を育む活動の支援

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
15	郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの再整備に向けた設計	生涯学習課	○

第2章 2-4 スポーツを楽しむまちづくり

2 スポーツ・レクリエーション活動の支援

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
16	地域スポーツレクリエーション補助事業の実施	生涯学習課	
17	チャレンジスポーツ事業・キッズチャレンジスポーツ事業の実施	生涯学習課	

3 スポーツ施設の整備・活用

評価書 番号	事業名	担当課	2次評価 対象
18	秋ヶ瀬スポーツセンター等の再整備に向けた設計	生涯学習課	

2 事務点検評価書(令和6年度事業)

事務点検評価書

(令和6年度事業)

18事業

【特記事項】

1 事業の対象について

(1) 「市内小学校児童」、「市内中学校生徒」は、令和6年5月1日現在の児童・生徒数に統一した。

◇ 市内小学校児童数：4,147人

◇ 市内中学校生徒数：1,817人

(2) 「全市民」は、令和6年4月1日現在の人口に統一した。

◇ 全市民数：76,187人

◇ 世帯数：36,510世帯

2 達成した成果の内容について

指標の達成度に合わせ、次のように示した。

「全て達成」・・・指標の達成度100%以上

「概ね達成」・・・指標の達成度51～99%

「半分達成」・・・指標の達成度50%

「部分達成」・・・指標の達成度1～49%

「達成せず」・・・指標の達成度0%

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	タブレット端末等ICT機器を活用した授業の推進		
担当部課	学校教育課	No.	1
将来目標	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	①知・徳・体の育成	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>児童生徒一人一台のタブレット端末の環境を活かし、ICTを効果的に活用した授業改善を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・AI学習ドリルの活用では、児童生徒一人ひとりの習熟度に応じた個別最適な学びを推進し、基礎的基本的な学力の定着や苦手分野の克服に向けて、家庭学習や授業内での継続的な活用を進める。 ・GIGAスクールサポートスタッフを活用においては、ICT機器の円滑な活用支援、教職員のICTスキル向上、ネットワークや端末のトラブル対応など、学校現場での支援体制を強化する。 ・各普通教室に大型提示装置を整備し、教師による効果的な提示・共有を可能にすることで、児童生徒の視覚的理解を促進し、タブレット端末等のICT機器を連携させることにより双方向的な授業展開を支援する。 		
予算額 (決算額)	令和5年度 57,417 千円 (7,783 千円)	令和6年度 38,812 千円 (38,214 千円)	令和7年度(当初) 50,332 千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>【現状】一人一台端末の環境が整備され、AI学習ドリルなどを活用した授業が各校で広がりつつある。GIGAスクールサポートスタッフの配置により、教員のICT活用支援やトラブル対応が可能となり、ICT機器の利活用が日常的に行われる基盤が整ってきている。さらに、大型提示装置の導入により、授業の視覚的効果や板書をしないことにより効率化が図られ、学習への集中や理解の促進が見られている。</p> <p>【課題】教員間のICT活用の格差が依然としてあり、活用が進んでいる教員と、十分に使いこなせていない教員との間で授業の質に差が生じている。AI学習ドリルにおいても、効果的な活用方法の共有が不十分であり、形式的な利用にとどまっている事例も見られる。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<p>市内全小中学校において、児童生徒のタブレット端末は、日常的に授業等で活用されている。</p> <p>【AI学習ドリル】活用状況では、総演習問題数が約320万問にのぼり、一人あたり月に約50問のペースで取り組まれている計算となる。このことから、学習活動のなかにeライブラリが根付いていることが読み取れ、日常的な活用が進んでいる。</p> <p>【GIGAスクールサポートスタッフ】年間72回の支援活動を実施し、1校あたり年間6回授業の準備や機器トラブルの対応、教員研修の補助など、ICT環境の安定運用に寄与した。</p> <p>【大型提示装置】導入率は小中学校において100%を達成。学校訪問により視覚的提示を活かした授業の充実が図れた。</p> <p>児童生徒のICT機器の活用は充分されているが、教員は授業で十分に活用されていない等、課題があるため総合的にみて概ね達成とした。</p>		
	<input type="radio"/> 全て達成 <input checked="" type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

<p>二次評価 外部評価委員の 意見等</p>	<p>市内のすべての小中学校において、児童生徒がタブレット端末を日常的に活用している現状は、個別最適な学びの推進という観点から、非常に高く評価できるものである。</p> <p>今後重要となるのは、タブレット端末の活用を通じて、児童生徒の学力の向上や、学習に対する興味・関心等の喚起といった成果に確実につなげていくことである。そのためにも、授業におけるタブレット端末活用の効果について、具体的な成果指標を設定し、授業改善の一環として本事業を着実に推進していくことを期待したい。</p>
	<p>児童生徒一人一台のタブレット端末や各普通教室への大型提示装置の導入、GIGAスクールサポートスタッフの配置など、市内全小中学校において、ICT教育の環境整備が進められたことを評価する。ICTを活用して学びを深めていく指導が求められており、そのためには授業や学習の中でICTを効果的に活用していくことが重要である。引き続き、先進事例の紹介や研修などを通じた教員への支援を期待する。</p>

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	義務教育学校設置に向けた基本設計の実施		
担当部課	学校教育課	No.	2
将来ビジョン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	①知・徳・体の育成	
根拠法令	学校教育法		
事業の内容・対象者	令和9年度の志木第二中学校区における義務教育学校設置に向けた基本設計を実施する。		
予算額 (決算額)	令和5年度 26,484 千円 (22,963 千円)	令和6年度 27,912 千円 (25,493 千円)	令和7年度(当初) 85,982 千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>基本設計を進めるにあたっては、志木第二中学校区の学校管理職との意見交換を行いながら設計を行った。</p> <p>公表した施設整備の概要は、2つの校舎の昇降口前を新たな学校の玄関口としてオープンに活用するイメージ図として掲載したところ、安全面を不安視するなど、様々なご意見をいただいたところであり、対応が課題となる。</p>		
達成した成果の内容 (具体的な数値目標・実績・達成状況)	<p>基本設計を基に、志木第二中学校区義務教育学校施設設備の概要として市ホームページで公表した。</p>		
	●全て達成 ○概ね達成 ○半分達成 ○部分達成 ○達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	水泳授業委託の実施		
担当部課	学校教育課	No.	3
将来ビジョン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	①知・徳・体の育成	
根拠法令			
事業の内容・対象者	市内全8小学校の全児童及び市内全4中学校の第1学年の生徒において、民間のプールを活用した水泳専門のインストラクターによる授業を実施することで、児童生徒の泳力向上につなげます。		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	42,000 千円 (30,233 千円)	35,000 千円 (30,081 千円)	40,700 千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>各学校から出た質問等に対する改善策を検討し、教育活動の一環として、より良い実施方法や指導方法を常に模索したうえで、市内の児童の泳力向上に取り組んできた。</p> <p>様々な各学校からの質問は重複することも多々あることから、水泳指導のQ&Aを作成することで、学校現場の水泳指導への共通理解を図ることで、市内の全小学校でより良い実施方法や指導方法を模索し、市内の児童の泳力向上を目指していく。</p> <p>令和7年度からは中学校での実施も検討するため、各学校の水泳授業の実施時期の調整も課題となっている。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<ul style="list-style-type: none"> ・新事業者での実施も2年目となり、各学校もスムーズに水泳授業の実施をすることができた。 ・児童の泳力レベルに応じて5グループに分けて泳力別指導を行っており、技能面で大きく向上が見られた。 ・水泳指導のQ&Aを作成し、各学校において水泳授業について共有理解を図ることができた。 		
	●全て達成 ○概ね達成 ○半分達成 ○部分達成 ○達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	スクールロイヤーの導入		
担当部課	学校教育課	No.	4
(将来) ユニ ン ン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	②地域社会に開かれた教育の推進	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>いじめや学校事故への対応など、学校における諸問題について、スクールロイヤーに相談できる体制を整え、初期対応の段階から、迅速かつ効率的に、問題解決につなげる。</p> <p>また、スクールロイヤーが講師となり、研修を実施し、教職員の資質向上につなげる。</p>		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	1,340千円 (1,320千円)	1,340千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>いじめや学校事故への対応など、学校における諸問題について、新たにスクールロイヤーによる相談業務を導入することで、法に基づく助言やサポートを受け、迅速かつ効率的に、諸問題の解決につなげることができた。</p> <p>また、学校の要望に応じた教職員研修を実施することで、教職員の資質向上につなげることができた。今後も継続して教職員研修を実施することで、教職員の資質向上につなげ、スムーズな学校運営を目指していく。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<p>スクールロイヤー制度を新たに導入し、学校における諸問題等について弁護士から法に基づく助言やサポートを受けることができた。また、管理職研修や教職員研修を実施することで、管理職や教職員の資質向上につなげることができた。</p> <p>① 学校や教育委員会からの相談対応 31回 ② 教職員研修 6回</p>		
	<p>●全て達成 ○概ね達成 ○半分達成 ○部分達成 ○達成せず</p>		
二次評価 外部評価委員の 意見等	<p>いじめや学校事故への対応をはじめとする、学校における様々な課題に対して、スクールロイヤーによる相談体制が確立されたことは、学校・保護者双方にとって、客観的かつ合理的な判断に基づいた円滑な対応が可能となる点で、高く評価できる。</p> <p>実際のヒアリングにおいても、多くの相談が「解決に結びついた」、あるいは「学校が自信をもって結論を出すことができた」との回答が得られており、その効果が伺える。</p> <p>今後も、本事業のさらなる推進と、現場に即した支援の充実を期待したい。</p>		
	<p>スクールロイヤー制度の導入により、学校における諸問題の事実関係等が整理され、法的見地や紛争解決の見地を取り入れることで、学校の対応方針を客観的かつ合理的に判断できたことを評価する。</p> <p>引き続き、スクールロイヤーの学校に対する法的助言や客観的視点での助言、さらに活用の可能性を広げていくことを期待する。</p>		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	志木っ子学校給食応援事業の実施		
担当部課	学校教育課	No.	5
将来ビジョン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	③安全で安心な学校づくり	
根拠法令	学校給食法		
事業の内容・対象者	令和6年4月から6月までの3か月間、小・中学校給食費を無償化するとともに、無償化期間終了後においても、令和7年3月までは、高騰する食材料費の値上げ分についての補助を実施します。また、小・中学校に通う子どもを3人以上養育している世帯に対し、3人目以降の給食費を無償化します。		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	26,460 千円 (25,815 千円)	150,024 千円 (140,090 千円)	58,628 千円
現状課題 R6年度の改善点	令和6年度については、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用したが、財源の確保が課題。		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	小・中学校給食費を無償化(令和6年4月～6月) ⇒小学校1食310円、中学校1食360円全児童生徒を対象に無償化 食材料費高騰分補助(令和6年7月～令和7年3月) ⇒小学校1食40円、中学校1食50円全児童生徒を対象に補助 多子世帯給食費無償化(令和6年7月～令和7年3月) ⇒義務教育期間内の子ども3人以上おり、3人目以降の子どもが市立小・中学校に在籍している児童生徒を対象に無償化 保護者の負担軽減となった。		
	<input checked="" type="radio"/> 全て達成 <input type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	宗岡小学校給食室大規模改修工事の設計		
担当部課	教育総務課	No.	6
将来ビジョン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	③安全で安心な学校づくり	
根拠法令			
事業の内容・対象者	小学校の安全安心な給食の提供と給食調理現場の衛生環境向上のため、宗岡小学校の給食室の大規模改修工事に向けた設計を実施します。		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	7,656千円 (7,645千円)	0千円
現状課題 R6年度の改善点	宗岡小学校給食室は建築後54年が経過しており、これまでに空調設備の設置や厨房機器の更新は行ってきたが、老朽化が進行していることから大規模改修工事を実施する必要がある。しかしながら、費用に対する効果を見据えて設計の内容に反映する必要がある。		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	学校や現場の栄養士と連絡体制及び現場確認を密に行うことで施設整備の方向性、配置等を考慮し、学校の要望に即した設計を行うことができた。 設計: 令和6年8月16日～令和7年3月21日		
	<input checked="" type="radio"/> 全て達成 <input type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	宗岡中学校体育館大規模改修工事の設計		
担当部課	教育総務課	No.	7
将来ビジョン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	③安全で安心な学校づくり	
根拠法令			
事業の内容・対象者	中学校の良好な教育環境を整備するため、宗岡中学校の体育館の大規模改修工事に向けた設計を実施します。		
予算額 (決算額)	令和5年度 0千円 (0千円)	令和6年度 12,661千円 (12,650千円)	令和7年度(当初) 0千円
現状課題 R6年度の改善点	宗岡中学校体育館は建築後49年が経過しており、耐震補強工事は平成13年に実施しているが、老朽化が進行している。毎年度、維持管理を行っており、志木市学校施設長寿命化計画に基づき大規模改修工事を実施するが、かかる費用に対する効果を見据えて設計の内容に反映する必要がある。		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	学校現場と連絡体制及び現場確認を密に行うことで施設整備の必要性、緊急度等を考慮し、学校の要望に即した設計を行うことができた。 設計: 令和6年7月4日～令和7年3月21日		
	<input checked="" type="radio"/> 全て達成 <input type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	学校施設等照明器具LED化工事の設計		
担当部課	教育総務課	No.	8
将来ビジョン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	③安全で安心な学校づくり	
根拠法令			
事業の内容・対象者	良好な教育環境を整備するため、学校施設等の照明設備のLED化に向けた設計を実施します。		
予算額 (決算額)	令和5年度 0千円 (0千円)	令和6年度 30,744千円 (27,390千円)	令和7年度(当初) 0千円
現状課題 R6年度の改善点	体育館及び給食室においては、空調設備の設置にあわせて照明器具をLEDに更新してきた。しかしながら、校舎や外灯においてはLED化になっておらず、蛍光灯も2027年度に製造中止となるため、計画的に更新する必要がある。		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目標・実績・達成状況)	<p>照明器具が壊れた際に、随時更新していたため、各小中学校において部分的にLEDとなっていたが、現場調査することにより状況を把握することができ、設計に反映することができた。</p> <p>設計: 令和6年12月4日～令和7年3月28日</p> <p>●全て達成 ○概ね達成 ○半分達成 ○部分達成 ○達成せず</p>		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	宗岡第二中学校給食室の空調設備の設置		
担当部課	教育総務課	No.	9
将来ビジョン	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	③安全で安心な学校づくり	
根拠法令			
事業の内容・対象者	中学校の安全安心な給食の提供と給食調理現場の衛生環境向上のため、宗岡第二中学校の給食室の空調設備設置工事を実施します。		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	26,644千円 (22,935千円)	0千円
現状課題 R6年度の改善点	空調設備が設置されていない給食室があるため、安全安心な給食の提供と給食調理現場の衛生環境向上のため、令和3年度から令和6年度にかけて空調設備を設置していく必要があったが、令和6年度に給食室への空調の設置は完了することができた。		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	学校現場と連絡体制及び現場確認を密に行うことで夏休み中に現場の工事が完成し、2学期から使用することができた。 【契約工期】 工事: 令和6年6月6日～令和6年10月31日 監理: 令和6年6月6日～令和6年11月8日 【竣工年月日】 令和6年10月31日		
	<input checked="" type="radio"/> 全て達成 <input type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	いじめ、不登校対策事業の強化		
担当部課	教育サポートセンター	No.	10
根拠法令	基本目標	①市民力が生きるまちづくり	
	基本的施策	②地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり	
	具体的施策	④特別なニーズに対応した教育の推進	
根拠法令	第4期教育振興基本計画、第4期生きる力と絆の埼玉県教育プラン		
事業の内容・対象者	<p>事業の実施目的: 不登校児童生徒の解消および不登校児童生徒数の減少 いじめ事案に関する心理的なサポート</p> <p>事業の内容: ①ステップルームを運営する。 ②ホームスタディー制度により、教育支援員を派遣する。 ③教育相談業務を充実させ、児童生徒・保護者の不安を軽減させる。 また、教員への支援を実施する。</p> <p>対象者: 不登校または不登校気味の児童生徒及びその保護者等 いじめ事案に関わる児童生徒及びその保護者等</p>		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	49,223 千円 (43,579 千円)	55,754 千円 (49,638 千円)	63,689 千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>【現状】 全国的に不登校児童生徒数は年々増加している。志木市においても、同様に不登校児童生徒数は年々増加しているが、その要因は一人ひとり違い、多種多様である。 そこで、不登校や不登校気味の児童生徒の居場所作りや人間関係構築のスキルを身に付けられる方策として、ステップルームを運営している。 また、長期欠席の状態にある児童生徒を対象に、人と関わる機会等を提供することを通して社会的自立心を育むためのホームスタディー制度を実施している。 さらに、いじめや不登校等に関する悩みや不安を抱えている児童生徒・保護者も多いので、その悩みや不安を軽減させるために、心理相談員による教育相談活動を実施している。</p> <p>【課題】 相談件数の増加や不登校児童生徒の多様化、いじめ事案の複雑化等があり、児童生徒の特性や性格、いじめ事案の内容に適切に対応できる相談員の選定と児童生徒・保護者との信頼関係構築に困難さがある。多様な相談員の確保と学校との連携強化が課題である。</p> <p>【改善点】 所員研修日(月1回実施)での話し合いや電話連絡等により、センター内相談員、学校福祉相談員、中学校校内相談員、小学校スクールカウンセラー等の連携や情報共有を密にすることで、様々な観点から相談活動及び支援を実施することができた。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<p>○適応指導教室(ステップルーム) 開室日・・・213日 対象人数・・・21人(小学生14人、中学生7人) 通所延べ人数・・・ 696人</p> <p>○ホームスタディー制度 対象人数・・・5人(小学生4人、中学生1人) 実施回数・・・101回(162時間)</p> <p>○教育相談業務 総相談件数・・・21, 854件(内、不登校に関するもの 5, 008件 いじめに関するもの 127件)</p>		
	○全て達成 ●概ね達成 ○半分達成 ○部分達成 ○達成せず		

<p>二次評価 外部評価委員の 意見等</p>	<p>不登校児童生徒数が年々増加している現状において、志木市が実施する適応指導教室(ステップルーム)の運営やホームスタディー制度といった、きめ細やかな支援の取組は高く評価できる。年間21,854件もの相談が実施され、多くの相談者が不安を軽減されたことも、その効果の一端を示しているといえる。一方で、こうした数値結果については、単年度ごとの状況把握にとどめるのではなく、経年変化を分析することで、支援の実効性や課題をよりの確に把握していくことが重要である。また、いじめや不登校の「解消率」など、達成目標を伴った具体的な成果指標の設定についても、今後の検討をお願いしたい。新たな不登校児童生徒を生み出さないためにも、児童生徒にとって魅力ある教育活動の一層の充実を期待したい。</p>
	<p>「誰一人取り残さない教育」の視点からは、いじめの解消や不登校児童生徒への適切な対応が欠かせない。いじめの未然防止や早期発見・早期対応、不登校児童生徒の未然防止や早期支援等のためには、組織的に取り組むことが重要である。教育サポートセンターにおいても、引き続き学校との連携を密にし、「誰一人取り残さない教育」の実践に資することを期待したい。</p>

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	いろは遊学館・公民館の講座、教室等の充実		
担当部課	いろは遊学館	No.	11
(将来ユニタム)	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	③豊かな文化を育むまちづくり	
	具体的施策	①さまざまな学習機会の提供	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>内容目的:いろは遊学館は、学社融合施設としての特色ある事業と市民ニーズに即した事業展開を図る。また、いろは遊学館、公民館とも生涯にわたる学習活動の支援と、地域の人材を生かしたサークル育成事業を実施する。併せて「地域の人づくり」の一環として、新たな情報の発信と、市民が学んだ成果を発表・還元できる場を提供し、人と人とを結び、交流できる環境づくりを積極的に推進する。</p> <p>対象者:全市民</p>		
予算額 (決算額)	令和5年度 3,213 千円 (2,776 千円)	令和6年度 3,162 千円 (2,761 千円)	令和7年度(当初) 3,158 千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>現状:いろは遊学館、公民館とも事業を7区分から9区分に分け、さまざまな事業を展開している。具体的には、学社融合事業、高齢者事業、一般成人事業、家庭教育推進事業、ICT推進事業などで事業の特色と市民ニーズを鑑みた事業を実施している。中でもサークル共催事業は、どの館も施設を利用している団体と共催で活発に行っている。</p> <p>課題:施設の利用や講座への参加は高齢者や子どもが多く、中高生や現役世代(18歳から60歳)の利用が少ない。</p> <p>改善点:いろは遊学館では、高齢者大学で十文字学園女子大学の学生が講師で講座を実施したほかサークル共催事業で、細田学園の箏曲部や合唱部が出演する音楽祭を開催した。また各公民館では自習室として、研修室や会議室の開放を行い、中高生の学習の場を提供し、公民館に中高生が来館するきっかけづくりを行った。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<p>いろは遊学館 ①大学生が講師の事業(きらめき発見委員会、いろは大学)計4回 延べ59名 ②中高校生が出演した音楽会(SDGs音楽会)計14名</p> <p>宗岡公民館 夏休みの毎週金曜日、第一研修室を開放。1階ロビーは、自習、読書等で利用。 1日あたりロビー11人 登録者6人 計17人</p> <p>宗岡第二公民館 Wi-Fiルーターを設置して空き会議室を自習スペースとして開放し、SNS等による情報発信を毎月行い、149人の登録、延べ1,187人(高校生以上が9割)の利用があった。</p> <p>数値目標:遊学館(講師・参加者)、各公民館(自習室利用者)の合計数 目安となる中高生3,600人(1学年600人×6学年)の10%=360人とする。 達成状況:遊学館の講師および参加者28人、宗岡公民館登録者等17人、宗岡第二公民館自習室登録者149人 合計194人 半分達成の理由:数値目標を中高生6学年のおおよその人数の1割としたとき、3館に来館し関わりを持った人数の割合が概ね半分であった為。</p> <p style="text-align: center;">○全て達成 ○概ね達成 ●半分達成 ○部分達成 ○達成せず</p>		

<p style="text-align: center;">二次評価 外部評価委員の 意見等</p>	<p>学社融合施設において、さまざまな事業が展開され、市民の生涯学習活動の支援や、地域の人々との交流を促進する環境づくりが進められていることは、「市民を支える快適なまちづくり」という基本目標の観点からも高く評価できる。</p> <p>しかし、事業の達成状況に関しては「半分達成」とされ、来館者数の割合からその根拠が示されているものの、より具体的な成果指標を設定することで、事業の効果を一層明確にできると考える。特に、基本目標に照らした具体的な成果指標を設け、市民の満足度や、利用状況などの定量的データを基に目標値を再検討することが、今後の事業運営において有益であると考え。今後、これらの事業が一層豊かな文化を育むまちづくりに貢献し、地域社会にとってさらに魅力的な存在となることを期待したい。</p>
	<p>公民館に来館するきっかけづくりとして、中高生に学習の場を提供したことは評価するが、期間や事業を限定しての実績把握では、いろは遊学館・公民館での多様な成果が実績に反映されていないと考える。</p> <p>今後とも多様な学習機会の提供はもとより、社会の要請に的確に対応した取組や、子どもや若者、働き盛りの世代も含めて、気軽に利用できる拠点となることを期待する。</p>

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	公民館3館合同リレー講座の実施		
担当部課	いろは遊学館	No.	12
将来(3年)	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	③豊かな文化を育むまちづくり	
	具体的施策	①さまざまな学習機会の提供	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>内容目的: 市民の生涯学習活動の機会の場を広げるために、市民が地域の施設だけでなく、他の施設に来館する機会を提供する事業を展開し、参加者が各館を回遊することで、それぞれの施設の魅力を知っていただく機会とすることを目的とした。</p> <p>いろは遊学館、宗岡公民館、宗岡第二公民館の3館が連携し、一つのテーマをリレー方式で、実施・完結する3館合同リレー講座を実施した。</p> <p>いろは遊学館: 対面講座2回、オンライン講座2回 ★腰痛、坐骨神経痛をやわらげるヨガ ★肩凝り解消ヨガ 宗岡公民館: 対面講座1回 ★やさしいヨガ 宗岡第二公民館: 対面講座1回 ★全身スッキリヨガ 対象: 一般成人</p>		
予算額(決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	50千円 (50千円)	90千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>現状: 各館の事業は、同様の事業はあるものの3館がつながりを持った事業はなかった。</p> <p>課題: 市民が地域の施設だけでなく、他の施設に来館し、3館の事業が1つのテーマを通じてつながりを持たせる。</p> <p>改善点: いろは遊学館、宗岡公民館、宗岡第二公民館で連携し、同じテーマの講座を順番にリレー方式で提供する「3館合同リレー講座」を実施した。令和6年度は「ヨガ」をテーマとした講座を3館それぞれの切り口で実施した。</p>		
達成した成果の内容 (具体的な数値目標・実績・達成状況)	<p>いろは遊学館 : 11月16日・23日 オンライン2回、対面2回 延べ参加者数44名 宗岡公民館 : 11月9日 対面1回 参加者数9名 宗岡第二公民館: 11月30日 対面1回 19名 数値目標: 各20名×6回 120名 実績72名</p> <p>令和7年度 テーマ 仮「3人の武将から見た戦国時代」 1回目 12月6日(土)10時～12時 仮「織田信長 編」いろは遊学館 2回目 2月14日(土)10時～12時 仮「豊臣秀吉 編」宗岡公民館 3回目 3月14日(土)10時～12時 仮「徳川家康 編」宗岡第二公民館</p> <p>半分達成の理由: 数値目標を事業全6回定員の人数120名としたときの参加者数割合がおおむね半分であった為。</p>		
	<input type="radio"/> 全て達成 <input type="radio"/> 概ね達成 <input checked="" type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	子ども読書活動推進事業の実施		
担当部課	柳瀬川図書館	No.	13
将来ビジョン	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	③豊かな文化を育むまちづくり	
	具体的施策	①さまざまな学習機会の提供	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>子どもたちの読解力、思考力、表現力を養う読書活動のさらなる推進を図るため、小・中学生を対象とした「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催した。開催にあたり、より多くの応募者を募るため、「調べる学習チャレンジ講座」を実施するなど、市立図書館と学校図書館が連携して調べ学習を支援し、子どもたちの学習意欲の向上を目指す。</p>		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	45千円 (45千円)	18千円
現状課題 R6年度の改善点	<p><現状> 「第1回志木市図書館を使った調べる学習コンクール」フォローアップ事業 * 調べる学習コンクール参加児童を対象とした調べ方のコツや作品のまとめ方についての講座を実施 「調べる学習チャレンジ講座」 開催期日及び場所: 柳瀬川図書館 7月24日、30日、8月21日 宗岡第二公民館 7月25日、29日、8月20日 対象者: 小学生 参加人数: 柳瀬川図書館 35人 宗岡第二公民館 13人 <課題> ・はじめての取組だったため、準備不足やホームページ掲載に不十分なところがあった。 ・中学生の応募が少なかった。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目標・実績・達成状況)	<p>「第1回志木市図書館を使った調べる学習コンクール」 募集期間: 令和6年8月29日～9月20日 応募資格: 志木市に在住している小・中学生 応募作品総数: 小学生 384点 中学生 8点 受賞作品数: 最優秀賞 5点 優秀賞 20点 全国コンクール出品作品数: 6点</p>		
	<input type="radio"/> 全て達成 <input checked="" type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		
二次評価 外部評価委員の 意見等	<p>子どもたちの読解力、思考力、表現力を養う読書活動の推進を図るために実施された「図書館を使った調べる学習コンクール」事業は、学びに向かう力を涵養する上で有効であり、大いに評価できる。一方で、中学生の応募が少なかった点は今後の課題として検討すべきである。また、本事業の達成状況について「概ね達成」とされ、その根拠が応募点数に基づいて示されているが、事業の目的に掲げられた「読解力、思考力、表現力の育成」を、より明確な成果指標として設定していくことが重要である。次年度以降は、経年比較が可能となることから、効果検証の観点に基づいた達成状況の提示を期待したい。</p>		
	<p>子どもたちの読書活動のさらなる推進を図るため、小・中学生を対象とした「図書館を使った調べる学習コンクール」を開催したことを評価する。 中学生の参加が少なかったことから、今後は、学校や生徒等へのコンクールの十分な周知が必要である。また、図書館の蔵書については、参考となる図書資料に大幅な不足が生じないように計画的な購入等を期待する。</p>		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	学校図書館の運営支援事業の充実(学校図書館事業推進アドバイザーの配置)		
担当部課	柳瀬川図書館	No.	14
(将来ユニ ン ン ン)	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	③豊かな文化を育むまちづくり	
	具体的施策	②生涯にわたり学ぶことができる環境づくり	
根拠法令			
事業の 内容・対象者	子どもたちの読解力、思考力、表現力を養う読書活動のさらなる推進を図るため、新たに学校図書館事業推進アドバイザーを配置し、また令和6年度から学校図書館員の任用を教育総務課から柳瀬川図書館に移管し、アドバイザーを中心とした、市内小・中学校の学校図書館の司書教諭や学校図書館員に指導及び助言、研修会を行い、市立図書館と学校図書館の有機的な連携強化につなげた。		
予 算 額 (決算額)	令和5年度 1,733 千円 (1,615 千円)	令和6年度 1,472 千円 (1,422 千円)	令和7年度(当初) 1,495 千円
現状 課題 R6年度の改善点	<p><現状> 学校図書館事業推進アドバイザーが市内小・中学校を定期的に巡回訪問し、管理職や司書教諭、学校図書館員に指導及び助言を行う。また学校図書館関係職員の研修会や学校図書館員間の情報交換等を企画し実施している。</p> <p><課題> ・学校図書館の蔵書状況や学校図書館員の経験年数等の違いがあるので、継続的な支援が必要である。 ・業務量に比べ勤務時間が少なく、図書委員会や研修会に参加が難しい。 ・学校図書館支援に関して、組織的に継続できる仕組み作りが必要である。</p> <p><改善点> 柳瀬川図書館が学校図書館員を任用することで、学校図書館員の指導や研修会をこれまで以上に実施でき、スキルアップに務めた。また団体貸出や読書通帳の活用により、不読率の改善を図ることができ、学校図書館の活性化と充実を目指した取り組みにより、子どもたちの読書推進を行うことができた。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<p>学校図書館事業推進アドバイザーによる学校図書館の主な支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問(指導・助言・運営支援) 74回 延290人 ・学校図書館現地研修会(現物資料の見計らい) ・学校図書館関係職員研修会、学校図書館勉強会及び情報交換会(6回) ・志木第二中学生おすすめの一冊及びポップカードの展示 ・第一回志木市図書館を使った調べる学習コンクール及びチャレンジ講座 ・図書館見学(小学2年生)3回 271人 		
	<input checked="" type="radio"/> 全て達成 <input type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

<p>二次評価 外部評価委員の 意見等</p>	<p>学校図書館事業推進アドバイザーによる市内小・中学校の学校図書員への支援は、学校図書館の活性化や子どもたちの不読率解消に向け、有効であり評価できる。ヒアリングにおいて、学校図書館事業推進アドバイザーには退職校長等が任命されていると伺ったが、学校現場を熟知した知見を生かし、より効果的な読書活動の推進が図られることが期待される。達成状況は「全て達成」とされているが、事業目的にも示されているとおり、子どもたちの「読解力、思考力、表現力」を養うことを成果指標として明確に設定することが必要ではないか。今後の取組において、その観点を踏まえた一層の充実を期待したい。</p>
	<p>学校図書員等の指導や研修会の実施、団体貸出や読書通帳の活用等により、子どもたちの不読率が改善し、子どもたちの読書推進を行うことができたことを評価する。学校図書館に対し、今後とも継続的な支援を行うことで、図書の利用が促進され、子どもたちの読解力、思考力、表現力が養われることを期待する。</p>

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの再整備に向けた設計		
担当部課	生涯学習課	No.	15
根拠(エビデンス)	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	③豊かな文化を育むまちづくり	
	具体的施策	④文化を育む活動の支援	
根拠法令			
事業の内容・対象者	郷土資料館と埋蔵文化財保管センターを複合化し、新たな展示スペースや体験スペースを設けるなど、市民とともに郷土資料を総合的に活用するための拠点となる施設の整備に向け、令和6年度は設計を実施する。		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	22,500千円 (19,800千円)	0千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>公共施設マネジメント戦略に基づき、郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの再整備事業(複合化)を進めるため、床面積要件の範囲内で、高い収蔵能力を確保するとともに、郷土資料の総合的な活用が可能となる施設として設計を行った。(R6事務スケジュール)</p> <p>R6. 4月 発注依頼 5月 入札 6月 契約 R7. 3月 完了</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目標・実績・達成状況)	<p>郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの再整備事業(複合化)に係る増築・改修工事の設計業務として、(仮称)文化財センター収蔵棟増築等工事設計業務を当初の予定通り実施することができた。</p> <p>設計の結果、「収蔵棟の増築」については、鉄骨造2階建とし、限られた床面積の中で階高をとることで収蔵能力を高めたことや、古文書などの保管に適した温湿度の調整が可能な収蔵室を設けるなど、現在の郷土資料の保存に係る課題の解決が期待できる。</p> <p>また、「展示室の改修」については、郷土資料を年代別・テーマ別に展示し、本市の歴史を総合的に学べるような空間を創出するほか、体験事業や自習等ができる(仮称)ふれあいホールを設けるなど、人々の繋がりを創れる施設が期待できるものとなった。</p>		
	<input checked="" type="radio"/> 全て達成 <input type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		
二次評価 外部評価委員の 意見等	<p>新たな文化財センター収蔵棟の増築事業は、市民に郷土への誇りと愛着を一層育み、豊かな文化をはぐくむまちづくりの観点からも高く評価できる。本事業における体験活動等は、子どもたちの社会科歴史学習をより充実させることが期待される。今後は、体験事業や自習等を通じて得られる効果を成果指標として設定することも検討されたい。その観点を踏まえ、本事業が一層推進されることを期待したい。</p>		
	<p>令和8年度中オープンに向け、郷土資料館と埋蔵文化財保管センターを複合化し、新たに展示スペースや体験スペース等を設置することにより、市民が郷土を愛し、また深く知ることができる充実した施設となることを期待する。</p> <p>子どもたちのみならず、多くの市民の利用に資するよう施設の効果的な周知方法を期待したい。</p>		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	地域スポーツレクリエーション補助事業の実施		
担当部課	生涯学習課	No.	16
(将来) ユニ シ ム)	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	④スポーツを楽しむまちづくり	
	具体的施策	②スポーツ・レクリエーション活動の支援	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>少子高齢化の影響や生活スタイルの変化などにより、市民体育祭については、令和6年度末をもって廃止し、今後、検討を行いながら新複合施設の完成後より新たなイベントを実施することとなった。その新複合施設完成後から実施する新たなスポーツイベントの開催までの間においても、地域におけるスポーツの推進とコミュニティの向上を目的として、町内会または複数の町内会が合同で自主的に行うスポーツイベントに対して新たな補助制度を創設した。</p>		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	600千円 (256千円)	600千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>現在、町内会自体の加入率も低迷し、その在り方自体も大きな課題となっていることから、当該補助金額は、事業に要した経費に対して5万円を上限とするほか、事業の中で町内会加入世帯が増加するような工夫をした場合には、1町内会あたり1万円を上乗せした6万円を上限としている。スポーツレクリエーションを通じて、町内会活動が活性化するような補助事業にしたいと考えている。</p> <p>また、市民体育祭は町内会同士の交流としても意義があり、今後もスポーツの推進をはじめ、地域活動への参加や防犯・防災活動への協力等の観点からも、町内会同士の繋がりは大切なものであると考えている。このことから、補助金の交付と併せて、市ホームページに「町内会スポーツイベント情報の発信」の専用ページを設け、補助金を活用したスポーツレクリエーションの状況の掲載や、他町内会へのメッセージの項目を設けるなどにより、地域全体の繋がりと活性化に努めていく。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<p>[R6年度の実施状況]</p> <p>①パークゴルフ大会(宗岡四区町内会):32人 ②ボウリング大会(宗岡五区町内会):27人 ③パークゴルフ大会(上町町内会):20人 ④ボウリング大会(志木の社町内会):40人 ⑤健康スポーツ推進事業(久保町内会):14人 ⑥ボウリング大会:(市場町内会):27人</p>		
	○全て達成 ●概ね達成 ○半分達成 ○部分達成 ○達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	チャレンジスポーツ事業・キッズチャレンジスポーツ事業の実施		
担当部課	生涯学習課	No.	17
将来ビジョン	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	④スポーツを楽しむまちづくり	
	具体的施策	②スポーツ・レクリエーション活動の支援	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>「第3期志木市スポーツ推進計画」に基づき、市民スポーツの実施率向上を図るため、新しいスポーツへの参画などによるスポーツ機会の創出を行うことにしている。その1つとして、若い世代を中心に人気上昇しているスケートボード等を楽しむ環境づくりと体験教室を実施するものである。</p>		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	670 千円 (604 千円)	670 千円 (572 千円)	600 千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>第3期志木市スポーツ推進計画では、「スポーツを週1回以上行う20歳以上の市民の割合」が、令和4年度の45.8%から令和9年度には65%以上とすることを重点目標としている。 このため、市民が様々なスポーツにチャレンジしてスポーツを始めるきっかけづくりを提供したいと考えている。</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目 標・実績・達成状 況)	<p>令和6年度は、いろは親水公園の左岸高水敷の一部を「アーバンスポーツエリア」として試行的に開放し、併せて「チャレンジスポーツ～スケートボードをはじめよう!～」を実施し、子どもたちと保護者がアーバンスポーツを楽しむことができた。</p>		
	<p>[R6事業の概要] 日 時: 令和6年7月13日(土) ※4部に時間を分けて、1部あたり約45分間の教室を実施した。 対象者: 市内在住の5歳から小学6年生までとその保護者 定 員: 40人 申込数: 235人 ※定員を40人から80人まで増員した。 参加予定者: 80人 最終参加者: 34人 ※雨天により日程を変更して実施したため、都合がつかない人も多く当日参加者は少なくなった。</p> <p>事業実施後のアンケートに回答いただいた、すべての子どもと保護者が「とても楽しかった(楽しかった)」と回答しており、スポーツを楽しむきっかけづくりとして有意義なものであった。 なお、令和7年度からは、正式な「アーバンスポーツエリア」として設置し、今後も多くの人を楽しめる場所として事業展開をしていく。</p>		
	<input type="radio"/> 全て達成 <input checked="" type="radio"/> 概ね達成 <input type="radio"/> 半分達成 <input type="radio"/> 部分達成 <input type="radio"/> 達成せず		

事務点検評価書(令和6年度事業)

事業名	秋ヶ瀬スポーツセンター等の再整備に向けた設計		
担当部課	生涯学習課	No.	18
将来(5年)目標	基本目標	②市民を支える快適なまちづくり	
	基本的施策	④スポーツを楽しむまちづくり	
	具体的施策	③スポーツ施設の整備・活用	
根拠法令			
事業の内容・対象者	<p>志木市公共施設等マネジメント戦略に基づき、老朽化が進み、耐震性能も不足している秋ヶ瀬スポーツセンターについて、市民のスポーツ振興や地域コミュニティの向上を目的とした施設として、再整備を実施する。</p> <p>令和5年度 秋ヶ瀬スポーツセンター等再整備基本方針の作成 令和6年度 秋ヶ瀬スポーツセンター建替工事設計業務委託 令和7年度 秋ヶ瀬スポーツセンター解体工事・新築工事 令和8年度 秋ヶ瀬スポーツセンター新築工事 令和9年度 オープン</p>		
予算額 (決算額)	令和5年度	令和6年度	令和7年度(当初)
	0千円 (0千円)	44,000千円 (35,931千円)	0千円
現状課題 R6年度の改善点	<p>利用者や利用団体のニーズを的確に捉えながら、柔道・剣道などでもできる機能も設置するほか、会議室や集会スペースを確保し、宗岡地区のコミュニティ拠点ともなる施設の整備に向け、令和6年度は設計を行う。</p> <p>(R6事務スケジュール) R6. 4月 発注依頼 5月 入札 6月 契約 R7. 3月 完了</p>		
達成した 成果の内容 (具体的な数値目標・実績・達成状況)	<p>秋ヶ瀬スポーツセンター建替工事設計業務について、ほぼ予定通り実施することができた。</p> <p>再整備の基本方針としては、柔道や剣道などでもできる機能に加え、宗岡地区においても武道を楽しむことができる環境を整備するなど、子どもから高齢者までスポーツやレクリエーションを楽しむことができる施設とする。</p> <p>さらに、会議や交流の場など地域コミュニティの活性化を図る施設にしたいと考えている。</p> <p>なお、秋ヶ瀬総合運動場や秋ヶ瀬運動公園については、市民ニーズを捉えながら今後活性化に向け検討をしていく。</p>		
	<p>●全て達成 ○概ね達成 ○半分達成 ○部分達成 ○達成せず</p>		

3 志木市教育委員会事務点検及び評価について

○ 委員からの評価（塚田昭一委員）

1-2 地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり

1) 知・徳・体の育成

本施策は3事業が実施され、そのうち「全て達成」が2事業、「概ね達成」が1事業となっている。「義務教育学校設置に向けた基本設計の実施」については、「志木市小中一貫教育推進計画」に基づき、着実に推進されていることが伺える。また、「水泳授業委託の実施」においては、小学校児童の泳力向上を目的に民間委託による習熟度別授業が2年目を迎え、児童の泳力が大きく伸長したことは高く評価できる。加えて、教員の業務負担軽減や働き方改革の観点からも意義ある取組である。

児童生徒の「知・徳・体」の育成を目指す3事業の取組については、今後、各種学力・学習状況調査等との関連を踏まえ、教育効果としての達成目標を設定することが望まれる。そのことにより、事業の効果を一層明確化し、さらなる改善・充実につながることを期待したい。

3) 安全で安心な学校づくり

本施策は5事業が実施され、いずれも「全て達成」となっている。学校教育課が所管する「志木っ子学校給食応援事業の実施」については、保護者負担の軽減という観点から大いに評価できる。財源の確保が課題として示されているが、今後も継続的かつ持続可能な形でさらなる推進を期待したい。また、教育総務課が所管する「施設・設備」に関連する諸事業については、安心・安全の確保や衛生環境の向上といった観点から、計画的かつ適時適切に事業が実施されていることを評価する。これらの取組が、子どもたちの健やかな学びの環境整備に大きく寄与していると考えられる。

2-3 豊かな文化を育むまちづくり

1) さまざまな学習機会の提供

本施策は3事業が実施され、そのうち「半分達成」が2事業、「概ね達成」が1事業となっている。各事業はいずれも「さまざまな学習機会の提供」を展開しており、市民の生涯学習の機会の拡充や、子どもたちの学習意欲の向上に寄与している点は評価できる。一方で、2事業の達成状況が「半分達成」とされ、その根拠が来館者数の割合によって示されているものの、より具体的な成果指標を設定することで、事業の効果を一層明確にすることが可能であると考えられる。特に、基本目標に照らした具体的な成果指標を設け、市民満足度や利用状況などの定量的データに基づいて目標値を再検討することは、今後の事業運営にとって有益である。今後は、数値目標を単に参加者人数の割合から導くのではなく、基本目標である「豊かな文化を育むまちづくり」の視点に基づき、成果指標を設定されたい。そのことが事業のさらなる推進につながることを期待する。

2-4 スポーツを楽しむまちづくり

2) スポーツ・レクリエーション活動の支援

本施策は2事業が実施され、「概ね達成」となっている。基本的施策で示されている「スポーツを楽しむまちづくり」の観点から、市民スポーツの実施率向上を目的とした各種スポーツ

・レクリエーションの機会提供は、生涯にわたりスポーツを楽しむ環境づくりに寄与するとともに、地域全体の交流を促進する点でも評価できる。また、アンケート調査において「楽しかった」といった肯定的な回答が得られており、事業の成果を裏付けている。今後は、市民の多様なニーズを的確に捉えながら、さらなる推進と充実を期待したい。

3) スポーツ施設の整備・活用

本施策は1事業が実施され、「全て達成」となっている。再整備にあたっては、柔道や剣道といった武道の実施機能に加え、会議や交流の場として地域コミュニティの活性化を図る施設として検討されており、基本目標に掲げる「市民を支える快適なまちづくり」を具現化する取組であると評価できる。今後は、子どもから高齢者まで幅広い世代がスポーツやレクリエーションに関心を寄せ、生涯スポーツへとつながる施設として、整備と活用が一層進むことを期待したい。

全体を通して

対象事業18の取組は、いずれも「市民力で作る未来へ続くふるさと 志木市」というスローガンを体現するものであり、市民の視点を踏まえて施策が展開されている様子が伺える。

一方で、達成状況として「全て達成」などの指標が示されているが、参加者数や講座実施回数といったアウトプット指標にとどまらず、事業の効果としての市民満足度など、アウトカム指標の設定が求められる。また、単年度ごとの指標に加え、長期的な目標を掲げ、その中で年度ごとの費用対効果を検証していくことが、市民への説明責任を果たすうえで重要である。

昨年度も同様の指摘を行ったが、ヒアリングにおいては依然として実施状況の説明（アウトプット）が中心であり、事業成果（アウトカム）の改善が十分に見られなかった。今後は、教育効果や市民サービスの向上を意識し、各事業の考え方や実施方法を見直す必要がある。そのためは、年度当初に成果指標となる目標値を明確に設定し、中間評価を位置づけることで、年度途中での修正や改善につなげることが不可欠である。事業の効果によって「変容した子供像・市民像」を具体的にイメージできるような成果指標を設定されることを期待したい。

○ 委員からの評価（村上文子委員）

1-2 地域ぐるみで子どもたちを育むまちづくり

1) 知・徳・体の育成

「義務教育学校設置に向けた基本設計の実施」では、基本設計を基にして志木第二中学校区義務教育学校施設整備の概要が公表された。この概要に対し、安全面を不安視するなどの様々な意見があったとのことで、意見等を踏まえ課題を解決し、令和9年度義務教育学校設置に向け安全面等に配慮した適切かつ迅速な準備を期待したい。

「水泳授業委託の実施」では、学校の共通理解を得るために水泳指導のQ&Aを作成し、また複数の民間専門指導員による習熟度別指導により、児童・生徒の泳力が向上したことを評価する。

3) 安全で安心な学校づくり

「志木っ子学校給食応援事業の実施」では、保護者負担の軽減のために3か月間の給食費無償化や、無償化期間終了後においても高騰する食材料費の値上げ分を補助したことを評価する。

「宗岡小学校給食室大規模改修工事の設計」、「宗岡中学校体育館大規模改修工事の設計」など、安全で安心な学校づくりとして計画的かつ適切に事業が実施されている。「宗岡第二中学校給食室の空調設備の設置」では、安全安心な給食の提供と給食調理現場での衛生環境が向上したことを評価する。

2-3 豊かな文化を育むまちづくり

1) さまざまな学習機会の提供

「公民館3館合同リレー講座の実施」は、他の施設に来館する機会を提供する事業として新規性があるが、公民館3館が離れていることから、参加者数の増加のためには、実施方法や内容を十分検討する必要がある。

2-4 スポーツを楽しむまちづくり

2) スポーツ・レクリエーション活動の支援

キッズチャレンジスポーツ事業として開催した「チャレンジスポーツ～スケートボードをはじめよう!～」は、若い世代を中心にスケートボードの人気の高まっていることから、時宜を得た事業であると評価する。定員を大幅に上回る申込人数があったことから、開催回数等の検討も必要である。

今後とも、利用者の安全面に配慮しつつ、アーバンスポーツの普及促進に寄与することを期待する。

3) スポーツ施設の整備・活用

老朽化が進み、耐震性能も不足している秋ヶ瀬スポーツセンターを市民のスポーツ振興や地域コミュニティの向上を目的とした施設として再整備していくことを評価する。

平成6年度は建替工事設計業務を委託し、柔道や剣道などの武道場機能や宗岡地区のコミュニティ拠点とする施設整備案を作成したが、平成9年度オープンに向け、引き続き市民ニーズ等を的確に捉え、子どもから高齢者までスポーツやレクリエーションを楽しむことができる施設となることを期待する。

全体を通して

教育委員会の施策展開の結果、今年度もICT機器を活用した授業推進や、義務教育学校設置に向けた基本設計実施、習熟度別による水泳授業実施、スクールロイヤーの導入、空調設備の設置などの安全で安心な学校づくり、郷土資料館及び埋蔵文化財保管センターの再整備、秋ヶ瀬スポーツセンター等の再整備など、多岐に渡り教育環境充実に向けた施策を展開していることを評価したい。

いじめについては、未然防止や早期発見・対応、また不登校児童生徒の未然防止や早期支援、学びの場の確保など、課題解決に向けて組織的に取り組み、「誰一人取り残さない教育」を実現することを期待したい。

子どもの読書活動の推進については、読書は言葉を学び、表現力を高め、創造力を豊かにするものであることから、子どもの不読率減少等に向け、引き続き尽力していただきたい。

なお、評価に当たっては、年度当初に、各事業の達成すべき目標や目指すべき成果を明確化し、適切な指標や目標値を設定することにより、各事業の目的達成状況の客観的な把握が可能となり、よりわかりやすい効果検証ができると思われるので検討を求めたい。

※ 資料

○志木市教育委員会事務点検評価委員設置要綱

平成27年3月3日 制定

(設置)

第1条 志木市教育委員会（以下「教育委員会」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第2項の規定に基づき、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、教育委員会事務点検評価委員（以下「委員」という。）を置く。

(所掌事項)

第2条 委員の所掌事項は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 教育委員会が実施する点検評価の検証に関すること。
- (2) 教育委員会の事務事業の改善についての助言等に関すること。
- (3) その他教育委員会が必要と認めるもの

(委員)

第3条 委員は、2人とし、教育に関し学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から同日の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(その他)

第5条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、令和元年5月15日から施行する。

令和7年度 教育委員会の事務に関する点検評価報告書

(対象：令和6年度教育行政施策)

【編集・発行】

志木市教育委員会

〒353-8501 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号

電話：048-473-1111（代表）

志木市ホームページ：http://www.ctiy.shiki.lg.jp